一 般 質 問 通 告 書

平成 23 年 2 月 15 日提出

嵐山町議会議長 藤野　幹男　様	議席番号	氏　　名	受付番号
	１３	渋谷登美子	

下記のとおり質問したいので通告します

№	質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	答弁者
1	こどもの町政参加について （答弁書不要）	(1)　本年の成人式は、実行委員会方式で、こどもの企画・発想を大切にした行事で、若い人が嵐山町に参加しやすい形式で、大人の押し付けがなく、気配りもあるよい事業であった。 　町長は、町事業への若い人の参加は、ふれあい交流センターで行うというのが前回の質問で子ども課の職務にはしないとの答弁である。いきなり、ふれあいセンターでの熟年者と若者が交流するのは難しい。若い人のセンスを寛容に受け入れ、若い人が参加して作り上げる経験を行政がもつことも必要である。若者と熟年者が同じ土俵で企画するにはいくつかの段階がある。若者がまちづくりに参加しやすい政策についての考えを聞く (2)　親になる若者が乳幼児との触れ合いがない現実が、子育て・子育ちの不安を大きくする。乳幼児と小中高生が触れ合うことができる子育ちサポートが必要である。乳幼児から 18 才くらいまでの人を対象にした子育ち支援の考えを聞く。 (3) 子どもの町政参加の一つとして。「こどものまち」祭りの行事の確立を政策とすることを提案する。子育て支援のフォーラムよりこどもへの大人のボランティア活動、次世代を育成する必要性も町民の多くの方が感じ、実践している。まちづくりの一つの方法として、若い人がまちづくりに参加しやすい手続きが必要である。小さい人か　　ら 20 才までの若者が一緒になってこどものための行事をつくりあげていくことで、次世代が、まちづくりに参加しやすい手法を組み立てることができる。場や時期、手法は、集まったメンバーで、構築し、乳幼児には、子育て中の母親を中心に、学童保育、放課後子ども教室、スポーッ少年団などの学童では、子どもの発想を活かし、大人がサポートする体制で作る企画を恒常的に行うことを提案する。	町長 教育長